

## 組織目標評価報告書(平成30年度)

17-3

部局名: 大学院医歯薬学総合研究科 薬学系

部局長名: 三好 伸一

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	
<b>①-1 目標</b> ・教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上)について 大学院講義についてもシャトルカードを使用して、院生一教員間での意思疎通を図り、教員FDを活用することで教育の検証ならびに改善点を見出す。 ・教育方法・内容について 新規大学院生のための「教養教育」に相当する講義を実施し、FDなどを介して問題点などを探る。従来の講義体制についても同様の検証を進める。 ・教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について 大学院入学直後のオリエンテーション時に将来に関するアンケートを実施し、その内容をFDで話し合い、教員に共通認識として把握するよう努める。昨年度入学者の進路との乖離があるか否か検証する。 ・学生支援について 引き続き、所属研究室以外の教員を副指導教員とし、学生支援体制の強化を図る。各種サポートが必要と思われる学生(病気、障害、不登校など)に対して、担当教員を選定しフォローすることで、学生支援体制を強化する。 ・国際共同による教育の状況について 博士後期課程在学中のダブル・ディグリープログラム履修学生1名への成均館大学薬学校(韓国)と連携した共同研究指導を継続実施する。 外国人留学生の受入れ推進に向けて、海外特別入試の導入に向けた整備を始める。 ・外国人留学生の受入状況について 博士後期課程在学中のミャンマーFDA職員3名に対する研究指導を継続実施する。 博士後期課程在学中のダブル・ディグリープログラム履修学生1名への成均館大学薬学校(韓国)と連携した共同研究指導を継続実施する。 外国人短期研修生:キャンパスアジア・短期医療応用コース(薬)(成均館)受入プログラムを実施し、参加希望の成均館大学薬学校(韓国)大学院学生6名(成均館大学から推薦された学部学生を含む)を受け入れ、薬学部の外国人短期研修生受入プログラムとしての修了証の発行をする。	<b>①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b> ・教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上)について 大学院講義においては、シャトルカードを継続して活用し、学生の理解度と問題点の有無を把握する教育システムを普遍化した。また、FD委員会主催による定期的な教員FDを介して、教育(講義や研究活動など)に関わる事項の意見交換を行い、点検と改善に努めた。さらに、世界トップレベルの研究者を外部非常勤講師として招聘し、大学院講義のみならず、学部生・大学院生・教員を対象にした特別講演会を開催してモチベーションの向上を図った。 ・教育方法・内容について 大学院生の「教養教育」の拡充に向け、先端的で幅広い教養の涵養につながる講義「先端薬学特論」を実施した。 ・教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について 大学院修了後の学生の進路は、その多くが製薬企業、あるいはその関連企業の研究開発や品質管理部門であり、学生の希望とほぼ合致した状況が続いている。今年度は、大学院教育が、彼らの進路にどのような影響をもたらしているかを明確にするため、大学院入学直後における学生の希望進路と修了時のそれを比較し得るアンケートを実施し、大学院生の進路に関する意識の変化を調査した。 ・学生支援について 在学中にメンタル問題を抱えた大学院生が増えていることから、個々の大学院生について、所属する研究室とは別の研究室の教員1名以上を副指導教員として選定する副指導教員制度を充実させ、指導教員を加えた複数教員による学生支援の体制の強化を図った。 ・国際共同による教育の状況について 博士後期課程に国費留学生としてハイフォン医科薬科大学講師(女性)1名を受入れ、共同研究指導を開始した。 博士後期課程在学中のダブル・ディグリープログラム履修学生1名への成均館大学薬学校(韓国)と連携した共同研究指導を継続実施した。 大学院入試委員会および学務委員会で外国人留学生の受入れ推進に向けて、海外特別入試の導入に向けた整備を始めた。 ・外国人留学生の受入状況について 博士後期課程に国費留学生としてハイフォン医科薬科大学講師(女性)1名を受入れ、共同研究指導を開始した。 博士後期課程在学中のミャンマーFDA職員3名に対する研究指導を継続実施した。 博士後期課程在学中のダブル・ディグリープログラム履修学生1名への成均館大学薬学校(韓国)と連携した共同研究指導を継続実施した。 外国人短期研修生については、キャンパスアジア・短期医療応用コース(薬)(成均館)受入プログラムを実施したが、成均館大学薬学校(韓国)からの推薦学生6名は学部学生のみであった。次年度は、大学院学生も含めた推薦を依頼する。
<b>①-2 年度計画との関連</b> ・国際共同による教育の状況について ○本学が定める年度計画に掲げる「ダブル・ディグリー等の共同プログラムについては、キャンパス・アジアの枠組みを活用したシステム構築を継続的に行う【51-1】」に向けた目標である。 ・外国人留学生の受入状況について ○本学が定める年度計画に掲げる「ミャンマー人材育成支援のための事業を更に推進する【73-1】」に向けた目標である。 ○本学が定める年度計画に掲げる「ダブル・ディグリー等の共同プログラムについては、キャンパス・アジアの枠組みを活用したシステム構築を継続的に行う【51-1】」に向けた目標である。 ○いずれも本学が定める年度計画に掲げる「海外大学と更に関係を深め、教職員、学生の海外派遣と受け入れを組織的に行う【17-1】」に向けた目標である。 ○いずれも本学が定める年度計画に掲げる「年間の外国人留学生受入れ数1,500人に拡大する(52 ②)」に向けた目標である。	<b>①-2 大学全体への貢献</b> ・国際共同による教育の状況について ○博士後期課程在学中のダブル・ディグリープログラム履修学生1名への成均館大学薬学校(韓国)と連携した共同研究指導は、本学が定める年度計画に掲げる「ダブル・ディグリー等の共同プログラムについては、キャンパス・アジアの枠組みを活用したシステム構築を継続的に行う【51-1】」に向けた目標に合致する。 ・外国人留学生の受入状況について ○博士後期課程在学中のミャンマーFDA職員3名に対する研究指導は、本学が定める年度計画に掲げる「ミャンマー人材育成支援のための事業を更に推進する【73-1】」に向けた目標に合致する。 ○博士後期課程在学中のダブル・ディグリープログラム履修学生1名への成均館大学薬学校(韓国)と連携した共同研究指導は、本学が定める年度計画に掲げる「ダブル・ディグリー等の共同プログラムについては、キャンパス・アジアの枠組みを活用したシステム構築を継続的に行う【51-1】」に向けた目標に合致する。 ○博士後期課程へのハイフォン医科薬科大学講師(女性)1名の受入れを含め、いずれも、本学が定める年度計画に掲げる「海外大学と更に関係を深め、教職員、学生の海外派遣と受け入れを組織的に行う【17-1】」に向けた目標に合致する。 ○いずれも本学が定める年度計画に掲げる「年間の外国人留学生受入れ数1,500人に拡大する(52 ②)」に向けた目標に合致する。
<b>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b> ・国際共同による教育の状況について ○博士後期課程に在学するミャンマーFDA職員数(目標:3名) ○博士後期課程に在学するダブル・ディグリープログラム履修学生数(目標:1名) ○外国人短期研修生:キャンパスアジア・短期医療応用コース(薬)(成均館)受入プログラムに参加した成均館大学薬学校(韓国)大学院学生数(成均館大学から推薦された学部学生を含む)(目標:6名)	<b>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b> ・国際共同による教育の状況について ○博士後期課程へのハイフォン医科薬科大学教員(1名、女性)の入学は、目標にはあげられていない実績である。 ○博士後期課程に在学するミャンマーFDA職員数は3名であり、目標(3名)は達成できた。 ○博士後期課程に在学するダブル・ディグリープログラム履修学生数は1名であり、目標(1名)は達成できた。 ○外国人短期研修生:キャンパスアジア・短期医療応用コース(薬)(成均館)受入プログラムに参加した成均館大学薬学校(韓国)大学院学生数(成均館大学から推薦された学部学生を含む)は6名であり、学部学生として目標(6名)は達成できた。

<b>②研究領域</b>	
<b>②-1 目標</b>	<b>②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
<p>1. 研究の実施体制ならびに実施状況 新たに採用予定の教授(生体応答制御学分野)を含めた教員で薬学系横断的な新規研究プロジェクトを立ち上げ、特に学外との連携プロジェクトの準備を行う。</p> <p>2. 研究資金の獲得状況 社会からの要請や科学技術にかかわる政策の動向、また競争的資金にかかわる制度改革に留意しながら、構成員が自律的に外部資金獲得に努める。</p> <p>3. 国際共同による研究の状況について 博士後期ダブル・ディグリーでの国際共同研究を推進する。</p> <p>4. 女性・外国人研究者の受入状況について 博士後期課程でのミャンマーFDA職員3名(うち2名が女性)の研究指導を継続する。</p> <p>5. 外国研究機関における研究従事状況について サバティカル制度導入にあたっての取り組みの検討を行う。</p>	<p>1. 研究の実施体制ならびに実施状況 薬学系横断的な新規研究プロジェクトを構築するために、各研究室でどのような連携ができるかを初期的に検討した。その中で、国立医薬品食品衛生研究所のレギュラトリーサイエンス関連部門と連携プロジェクトを推進することが纏まり、連携大学院の開設に関する協定を締結した。</p> <p>2. 研究資金の獲得状況 共同機器や研究スペース活用の在り方を学部学系執行部会議や教員会議などにおいて検討し、オープンラボの設定や空きスペースを有効活用することを決定した。</p> <p>3. 国際共同による研究の状況について 博士後期ダブル・ディグリーでの国際共同研究を引き続き推進することができた。</p> <p>4. 女性・外国人研究者の受入状況について 博士後期課程でのミャンマーFDA職員3名(うち2名が女性)の研究指導を継続した。</p> <p>5. 外国研究機関における研究従事状況について サバティカル制度の導入にあたっての取り組みを引き続き検討した。</p>
<b>②-2 年度計画との関連</b>	<b>②-2 大学全体への貢献</b>
<p>・研究の実施体制ならびに実施状況、研究資金の獲得状況 ○「異分野融合研究の追求」(中期計画82)、土地・建物の有効活用、戦略的活用を推進(中期計画86、87、88)、法令遵守(研究活動における不正防止、教員等個人宛寄附金の適正な管理など)(中期計画92、93)、外部研究資金等の獲得の推進(中期計画:38、39、79)等に関連する。</p> <p>・国際共同による研究の状況について ○博士後期ダブル・ディグリーでの国際共同研究の推進は、本学が定める年度計画に掲げる「ダブル・ディグリー等の共同プログラムについては、キャンパス・アジアの枠組みを活用したシステム構築を継続的に行う【51-1】」に向けた目標である。</p> <p>・女性・外国人研究者の受入状況について ○博士後期課程でのミャンマーFDA職員の研究指導の継続は、本学が定める年度計画に掲げる「ミャンマー人材育成支援のための事業を更に推進する【73-1】」に向けた目標である。</p>	<p>・研究の実施体制ならびに実施状況、研究資金の獲得状況 ○本学が定める「異分野融合研究の追求」(中期計画82)、土地・建物の有効活用、戦略的活用を推進(中期計画86、87、88)、法令遵守(研究活動における不正防止、教員等個人宛寄附金の適正な管理など)(中期計画92、93)、外部研究資金等の獲得の推進(中期計画:38、39、79)等に合致する。</p> <p>・国際共同による研究の状況について ○博士後期ダブル・ディグリーでの国際共同研究の推進は、本学が定める年度計画に掲げる「ダブル・ディグリー等の共同プログラムについては、キャンパス・アジアの枠組みを活用したシステム構築を継続的に行う【51-1】」に向けた目標に合致する。</p> <p>・女性・外国人研究者の受入状況について ○博士後期課程でのハイフォン医科薬科大学教員1名(女性)の研究指導の開始、及びミャンマーFDA職員3名(2名は女性)の研究指導の継続は、本学の進める外国人・女性研究者の受入れにおいて貢献できた。</p> <p>○博士後期課程でのミャンマーFDA職員の研究指導の継続は、本学が定める年度計画に掲げる「ミャンマー人材育成支援のための事業を更に推進する【73-1】」に向けた目標に合致する。</p>
<b>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
<p>○論文・著書等の研究業績の状況</p> <p>○各種外部資金受け入れ状況</p> <p>○学部・研究科等を代表する研究業績リスト(インパクトファクターのみならず、研究手法が妥当であれば応えようとする社会課題の大きさも勘案)</p> <p>○若手教員・女性教員・外国人教員の採用状況</p> <p>・国際共同による教育の状況について、女性・外国人研究者の受入状況について</p> <p>○博士後期課程に在学するミャンマーFDA職員数(目標:3名)</p> <p>○博士後期課程に在学するダブル・ディグリープログラム履修学生数(目標:1名)</p>	<p>○新規教員を含めた各研究室の取り組みを纏めて可視化し、研究領域横断型連携プロジェクトを準備した。また、国立医薬品食品衛生研究所との連携プロジェクト推進のため、連携大学院の開設に関する協定を締結した。</p> <p>○教員会議やFDを利用して、SDGsをはじめとする社会要請や科学技術政策の動向、また競争的資金の制度改革の状況を説明し、各教員の研究意識を高めた。</p> <p>○教員会議やメールによるアナウンスを複数回繰り返すことにより、科研費をはじめとする外部資金獲得への自律的応募を促した。</p> <p>○FD等を介して、研究倫理やコンプライアンスについての指導・周知を継続的に行った。</p> <p>○教員採用では、若手、女性、外国人教員の比率が向上するよう選考時の努力を行った。</p> <p>・国際共同による教育の状況について、女性・外国人研究者の受入状況について</p> <p>○ミャンマーFDAの職員3名(うち女性研究者2名)が博士後期課程に在学しており、目標(3名)は達成できた。</p> <p>○ダブル・ディグリープログラム履修学生1名が博士後期課程に在学しており、目標(1名)は達成できた。</p> <p>○新規に博士後期課程においてハイフォン医科薬科大学の教員1名(女性)の研究指導が開始されたことは、目標を上回る。</p>
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	
<b>③-1 目標</b>	<b>③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
<p>・地域社会との連携、社会貢献について</p> <p>○薬剤師及び一般社会人等を対象とした薬学公開講座の開催等を通じて、薬学に関する最新情報の提供と知識の向上・啓発に努める。</p> <p>・国際交流・協力について</p> <p>○成均館大学(韓国)との連携を更に深めるとともに、他のアジアの有力大学・研究機関等との連携を進め、国際交流を推進する。</p> <p>・その他</p> <p>○薬用植物園の一般公開を実施し、薬学関連の科学に対する社会的な理解を進める機会とする。</p>	<p>・地域社会との連携、社会貢献について</p> <p>○薬剤師及び一般社会人等を対象とした公開講座、高校生及び一般を対象とした公開講演会を実施した。</p> <p>○岡山大学ホームカミングデーにおいて、卒業生と在学生の交流のための薬学同窓生交流会を実施した。</p> <p>○岡山大学付属中学校の大学訪問において、薬学部の取組や薬剤師の役割について講義を行った。</p> <p>・国際交流・協力について</p> <p>○成均館大学(韓国)とのダブル・ディグリープログラムによる連携の継続実施するとともに、博士後期課程において、ミャンマーFDA職員及びハイフォン医科薬科大学教員の研究指導を行った。</p> <p>・その他</p> <p>○公開講演会、公開講座、岡山大学ホームカミングデー及び付属中学校訪問の際に薬用植物園の一般公開を実施し、多数の参加者に薬学関連の社会的な理解を進める機会とした。</p>
<b>③-2 年度計画との関連</b>	<b>③-2 大学全体への貢献</b>
<p>薬剤師及び一般社会人等を対象とした公開講座等の実施及び薬用植物園の公開は、本学が定める年度計画に掲げる「本学が主体性を持った社会貢献事業を多面的に展開するため、岡山大学の研究情報の提供、学術的な知を易しく紹介する公開講座を開催する(47 ②)」にも寄与するものである。</p> <p>また、アジア等の有力大学・研究機関等との連携や協力は、岡山大学が掲げるSDGs推進の根幹となる事業であり、何れも本学が定める年度計画に掲げる、4 その他の目標を達成するための措置(1) グローバル化に関する目標を達成するための措置及び「短期派遣プログラムの単位化を整備【6-1】」に関連するものである。</p>	<p>薬剤師及び一般社会人等を対象とした以下のものは、本学が定める年度計画に掲げる「本学が主体性を持った社会貢献事業を多面的に展開するため、岡山大学の研究情報の提供、学術的な知を易しく紹介する公開講座を開催する(47 ②)」にも寄与するものである。</p> <p>・薬剤師及び一般社会人等を対象とした公開講座において、関連業界関係者をはじめとした地域住民に本学における最新の研究や学術的な知見を紹介し、地域への社会貢献に寄与した。</p> <p>・高校生及び一般を対象とした公開講演会、岡山大学付属中学校の大学訪問によって、本学における研究教育での取組に対する次世代への認知度向上に寄与した。</p> <p>・公開講演会、公開講座、ホームカミングデー等における薬用植物園の一般公開を通じて、岡山大学としての地域への社会貢献に寄与した。</p> <p>・岡山大学ホームカミングデーにおける卒業生と在学生との交流会(薬学同窓生交流会)において、近年の薬学部の研究等について紹介を行うことにより、本学の取組について関連業界で活躍する卒業生への認知度向上に寄与した。</p> <p>③-1に示すアジア等の有力大学・研究機関等との連携や協力は、岡山大学が掲げるSDGs推進の根幹となる事業であり、本学の年度計画4その他の目標を達成するための措置(1) グローバル化に関する目標を達成するための措置 及び「短期派遣プログラムの単位化を整備【6-1】」に関連するものである。</p>
<b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
<p>○公開講演会等の実施状況</p> <p>○地域貢献・国際貢献(SDGs)への貢献の状況</p>	<p>○公開講演会等の実施状況</p> <p>・薬剤師及び一般社会人等を対象とした公開講座には76名、高校生及び一般を対象とした公開講演会には25名の参加者を得た。</p> <p>・岡山大学付属中学校の大学訪問では、13名の中学生の訪問を得た。</p> <p>・岡山大学ホームカミングデーにおける薬学同窓生交流会には、学内外あわせて約20名の参加者を得た。</p> <p>○地域貢献・国際貢献(SDGs)への貢献の状況</p> <p>成均館大学(韓国)とのダブル・ディグリープログラムの継続実施を達成するために、キャンパスアジア事業枠のJASSO奨学金(12人)を充当していただき、目標を達成することができた。</p>

## ④管理運営領域

④-1 目標	④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<ul style="list-style-type: none"><li>・部局運営体制の改善強化について 医学系、歯学系との継続的な協力により、部局運営体制の改善強化を進めていく。</li><li>・部局組織の活性化について 適切な部局運営を行うために、医学系、歯学系と継続的に協力していく。</li><li>・ダイバーシティの推進(女性教員・外国人教員比率・次世代育成支援等)について 本学系では女性教員の割合は比較的高いが、ダイバーシティ推進のため、女性教員のさらなる採用や昇進等の可能性に関して引き続き検討する。</li><li>・効率的・戦略的な予算配分・執行について 省エネ意識の喚起等によって経費節減を図るとともに、各委員会等の実施計画等を精査し、より効果的な予算執行を目指す。</li><li>・安全衛生に対する配慮について 適切な管理活動計画を立案し、それに基づいた適正な安全衛生活動を推進する。</li><li>・施設整備の推進について 安全・安心な教育研究環境を確保するため、現有施設の点検および機能改善整備を推進する。</li><li>・法令遵守の徹底について 情報セキュリティ、適切な会計処理、適正な研究活動等に関して、継続的に法令遵守について啓発するとともに、講習やwebシステム等による確認と周知を図る。</li><li>・その他 国際交流に関して、成均館大学、ミャンマーFDA、ハイフォン医科薬科大学等との交流をさらに深化させ、学生交流の実質化を進める。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・部局運営体制の改善強化について 医学系、歯学系との継続的な協力により、部局運営体制の改善強化を進めた。</li><li>・部局組織の活性化について 適切な部局運営を行うために、医学系、歯学系と継続的に協力した。</li><li>・ダイバーシティの推進(女性教員・外国人教員比率・次世代育成支援等)について ダイバーシティ推進のため、女性教員のさらなる採用や昇進、次世代支援育成等の可能性に関して検討した。</li><li>・効率的・戦略的な予算配分・執行について 全ての教職員に対して省エネ意識を喚起することにより、経費の節減を図った。また各委員会の経費については、実施計画等を精査し、より効果的な予算執行を行った。</li><li>・安全衛生に対する配慮について 適切な管理活動計画を立案し、それに基づいた適正な安全衛生活動を推進した。</li><li>・施設整備の推進について 安全・安心な教育研究環境を確保するため、現有施設の点検および機能改善整備を推進した。</li><li>・法令遵守の徹底について 情報セキュリティ、適切な会計処理、適正な研究活動等に関して、継続的に法令遵守について啓発するとともに、講習やwebシステムによる再教育と周知を行った。</li><li>・その他 国際交流に関して、成均館大学、ミャンマーFDA、ハイフォン医科薬科大学、サン・カルロス大学との交流をさらに深化させ、学生交流の実質化を推進した。学生の国際交流を継続するためには、資金の確保が重要であることから、可能性のある各種外部資金について検討した。</li></ul>
④-2 年度計画との関連 国際交流の活性化、組織運営の改善、効果的な予算執行、法令遵守、安全衛生に対する取組等、全学の組織目標に合致したものと考える。	④-2 大学全体への貢献 ④-1に示す国際交流の活性化、組織運営の改善、効果的な予算執行、法令遵守、安全衛生に対する取組等は、いずれも全学の組織目標に合致したものである。
④-3 目標とする(重要視する)客観的指標 法令遵守の徹底と安全衛生の推進(コンプライアンス・安全衛生に係る研修を全教職員の受講を目指す。)	④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 コンプライアンスや安全衛生等に係る研修のうち、担当理事や担当全学委員によるものは、全ての教職員を対象に実施した。また、webシステムによるe-ラーニングについては受講の徹底を図った。

## 【総括記述欄】

教育、研究、社会貢献、いずれの領域についても、当初の目標を良好に達成できたと評価している。次年度については、教育の領域では、博士課程及び博士後期課程への進学率を向上させる方策を検討し、可能なものから実行する。例えば、今年度末に協定を締結する国立医薬品食品衛生研究所との連携大学院については、これを実質化させる。研究の領域では、今年度を選定された重点研究分野の教員を中核として、大型プロジェクトや大型研究費の獲得を目指す。社会貢献の領域では、引き続き公開講座等を実施して、薬学に関する最新情報を薬剤師や一般社会人等に提供するとともに、アジア圏の有力大学を中心とした国際交流をさらに深化させることに努める。